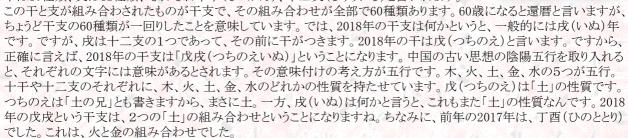
2018年1月 発行責任者 久保洋子

新年のご挨拶

「変化の年」

2018年新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

干支(えと)という漢字を見るとわかるように、「干」と「支」からなっています。 干は10種類、支は12種類、それぞれ十干(じっかん)、十二支(じゅうにし)と言われます。



五行という考え方で見ると、「土」は「万物を育成し保護する性質」とあります。さらに、「四季の移り変わりの象徴」になり ます。五行はいろんなものに当てはめられてきましたが、その1つが季節。木は春、火は夏、金は秋、水は冬です。そして、 残った「土」はそれぞれの季節の変わり目を表すことになっています。2018年は、戊戌の年ですから、土の性質から変化 する年なのです。そして、その変化の仕方はどうでしょうか。今までの主役が変わる。仕組みが変わる、スポットライトが当 たるところが変わる、というように捉えたいと思います。これまでのルールや慣習にこだわらないで、新しい動きが生まれる 年だと思います。今までよりも良くなろうと思うなら、思い切って変える。今まで考えもしなかった新しいものに挑戦してみた り、今までのアプローチから思いっきり別のアプローチに変えてみたりと。勇気が必要なぐらいの変化を求めなければ、成 果は期待できないのかもしれませんね。2018年は、そういう年なのではないでしょうか。そう思いながら勇気を持って進ん でいく年としていきたいと思います。

今年も昨年に続きご協力よろしくお願いいたします。

看護部長 久々湊 智予

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、「原点回帰」という看護部の目標のもと、基本に立ち返り、見直し、立て直しを行う 1年目となりました。また、同時に今後の当院の在り方を考え、病院としての取り組みに沿って 大きな改変が行われました。7月に地域包括ケア病棟の増床、急性期病床の減床、そして 各病棟の担当科の再編を行いました。当院の役割である「質の高い救急医療の提供」を行う ために各部署が協力していただき、緊急患者さんの受け入れができる体制が維持できている と考えています。病院全体がいつも同じ方向を向いて、地域の「ベストホスピタル」 となれるように、今年度も取り組みたいと思います。

今年は犬年(わんわんの年)。

みんなが1人のために ~ All for one (わん)~

1人がみんなのために~ One (わん) for all

(*先日ある方が話された、この言葉がとても印象に残り、拝借しました。)



副看護部長 長井 砂都美

院内研修報告

『フォローアップ研修』 講師:教育指導担当師長 久保洋子

今回の研修で、ケアをするために業務を先 に済ませていく事は、結果としてケアにつなが ると学び、業務を効率良く済ませる工夫も大切 だと感じました。また、病棟配属以降、新人看 護師全員でゆっくり話す機会はなかったため、 互いの状況や悩みについて話し、グループ ワークをすることで、とても良い気分転換となり ました。

今後は、患者に寄り添った看護業務にする にはどうすればいいか考えながら、日々の業 務を行おうと思います。

3階東病棟 坂元







今回の新人看護師フォローアップ研修では、 各部署に配属された新人看護師同士で、普 段抱えている事や悩んでいる事について話 し合い、新人看護師の多くが、私と同じように、 ルートキープなどの看護技術に対して自信 がないとの発言が聞かれ、今後も看護技術 の向上を図っていく必要があると感じました。

また、新人看護師となり、半年ほど経過し出 来るようになった事についても話し合い、普 段出来ていない事にばかり目が行きがちでし たが、半年で出来るようになった事も確実に 増えているのだと実感する事ができたので、 今後も共に成長できるように努力していきた いと感じました。 4階東病棟 田代

レベルI『SP(模擬患者)研修』を受講して

今回の研修で、私は、自分が患者 からみてどのような印象を受けるのか、 第3者の意見を通して客観的に見つ め直すことができました。私は、胃が ん摘出術を2日後にひかえて不安を 訴える患者への対応を行いました。私 は患者様へ対応するにあたり、なるべ くポジティブに目を向けてそれを会話 の中に盛り込むこと、患者の目線の高 さで会話をしようと意識しました。しか し、患者の声に耳を傾け傾聴すること の大切さや前傾姿勢で圧迫感がある との指摘を受ける場面がありました。 これからは患者様がどのように感じ

した。 地域包括ケア病棟

るか常に意識して対応したいと感じま

今回、模擬患者対応を実際に看護師1人ずつ行いました。一つ目の 事例は、胃がんの手術を明日迎える不安のある患者で、二つ目は食事 制限を守れない患者事例でした。私は、二つ目の事例で塩分制限があ る中、しょうゆや梅干しを食べてしまい、病院食の味の薄さに食欲がな い患者の対応を行いました。

実際に行ってすごく緊張はしましたが、患者の疾患をまず理解出来な ければ患者に適切な説明が行えないと感じました。また、他職種との連 携を図りながら患者の気持ちに耳を傾け、一緒になって治療を進めて いこうと思いました。







レベルI『看護研究:文献検索研修」を受講して 講師:地域連携室



今回、文献検索についての研修会を受講して、文献 検索の方法を教えて頂きました。検索一つにしても様々な 方法があることを知ることが出来ました。

看護研究する中で、日頃から疑問に思うことが何より も大切で、指示があるからするのではなく、1つ1つに対し根拠や留意点 等、頭に入れて行うことが大切だと感じました。看護研究に向けて、文献 を少しずつでも読み進めていきたいと思います。

4階東病棟

































院内研修報告

レベル I 「苦痛の緩和」研修を受講して 講師:外来主任 濱田幸蔵

今回の研修を通して患者さんに焦点を当て、患者さんが持つ苦痛を明らかにして一緒に解決方法を探すこと・苦痛に寄り添うことがとても大切であると感じました。薬物療法により苦痛の緩和を図る際には、薬を使って終わりではなく確認をする事、薬だけに頼るのではなく患者さんの話を聞き傍にいることも大切であると研修から学びました。

今回の研修から私たちは、患者さんの言葉に耳を傾け、患者さんのそばに寄り添うことを大切にしていかなければいけないと改めて感じることができました。

手術室 川添







看護補助者研修 「移動のお世話」 研修を受講して



講師:総合リハビリテーション部次長 長嶺

力のいらない基本動作パターンと介助法を 実技で習いました。講師の説明を聞き、見て いると簡単そうですが、実際にやってみると 同じようには出来ず難しく感じました。介助 者・患者ともに、なるべく負担を減らしてで きる介助法を教わりましたが、ベッドから起 き上がる時に身体の横に手を伸ばし肘に体重 を乗せるように起き上がる、立ち上がりの時 は介助者が近い距離で前に立ってしまうと患 者は立てなくなってしまう等、なぜそうなる のかという説明を聞いて、一つ一つの動作に 意味がある事がわかりました。免荷患者の移 乗やターン動作・着座動作など、いろいろな 場面の動作が資料に載っていたので、よく読 んで理解していきたいと思います。移乗動作 が苦手で力任せになってしまう所もあり、な かなか上手くいかないと思う事もあったので、 今回受けた研修を振り返り今後に活かしてい きたいと思います。

回復リハビリ病棟 田中

看護補助者研修「食事のお世話」 研修を受講して

講師:総合リハビリテーション部 福崎

食事介助の研修を受けて、口の中を清潔に保 ち義歯を付ける事で食事が食べやすくなり、嚥下 障害のある患者の場合は、姿勢をしっかり整えて あげる事が大切である事、また患者が誤嚥しない ように食事前に嚥下体操を行う事で食事が美味 しく食べる事ができ、誤嚥する可能性が少なくな るという事を知りました。実際にゼリーを使って口 を閉じすに飲み込むという事をやってみましたが 怖くて飲み込む事が出来なかったです。

また、患者と同じ目線で座って介助する事が患者にとって食べやすく、誤嚥しにくい介助になるという事を学びました。



地域包括77病棟 原園

)「重症度、医療・看護必要度研修」を受講して

3階東病棟 尺無濵

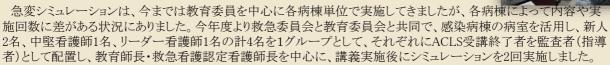
11/21に学生・未受講者対象で、講師は久留須師長にて研修が開催されました。看護必要度の研修は、診療報酬改定において評価項目や基準を満たす点数・患者の割合に大きな改定が行われたため重症、医療・看護必要度による患者の状態の評価は必要であり、7対1入院基本料を習得するためにも必須となっています。ゲーム方式で正しい評価の仕方を学べたので実践していきたいと思います。



■ _{平成29}年度 (初)取り組み

急変時シミュレーションを実施して

外来師長 平 順幸



1回目終了後に監査者より指導が入り、その後再度振り返りをグループで行い、2回目の実施では指導を活かした行動やお互いへの声掛けができるようになりました。

急変シミュレーション開催を一つにまとめることで、統一した質の担保を図りながら、指導の育成に繋がると考えています。定期的に実施できるように計画し継続していきたいと考えています。

実施者) 3東 毛利

私が看護師を目指したのは、以前の勤務先の病院で一人の患者様がお亡くなりになった事がきっかけです。看護スタッフが急変対応しているにも関わらず、

今回急変時シュミレーションは夜間巡視の際の急変時の対応であり、CPRの患者様を蘇生し人工呼吸器挿管までの研修でした。一瞬の判断と心臓マッサージの質の大切さ、チームとの連携を学び、いつでも冷静に対応できるようにしたいと思いました。

ただ何も出来ず見守っているだけの自分が悔しかっ

観察者) 外来 折小野



院内全体での急変時シミュレーションであり参加したスタッフはとても緊張したと思います。普段同じ病棟で勤務をしていないスタッフ同士でのシミュレーションであった為か、1回目はお互いにコミュニケーションがとれず上手くいかない事も多くありました。先輩スタッフからの指摘やアドバイスを受け2回目は最初と比べ、お互いの声掛けなど積極的に行えていたと思います。患者さんの急変はいつ起こるか分かりません。看護師として胸骨圧迫や人工呼吸など、救急に関する技術はとても大切です。普段からスキルを磨き一人でも多くの患者さんの命を救えるよう努力が必要だと感じました。

院外研修報告

た事があります。

「看護管理者倫理研修

~抑制しない看護へのチャレンジ~」に参加して

3階東病棟主任 三宅

平成29年12月9・10日に「看護管理者研修〜抑制しない看護へのチャレンジ〜」の基調講話で金沢大学付属病院での抑制しない看護の実現に向けた取り組み、身体抑制ゼロ実現について多くの事例を交え、倫理的課題について考えさせられる研修となりました。

当院でも治療上の必要性や安全保持の為、使用しなければならないこかりのもと安全を守る責任から抑制の使用となる現状がありますが、身体制患者に対して倫理的視点を持ち、身体抑制を減らして多職種でのカンファが全体の課題として多職種でいく必要があると考えさせられました。

講座「パス大会」に参加して

3階東病棟 ハ牟禮

2016年8月より済生会熊本病院にて開催されているクリニカルパス講座を受講しています。クリニカルパスに関する番談、バリアンス分析に関する講義の中心となっています。講義の中心となっています。講義の中心のです。クリニカルパスは療が自的であり、多くの医療の質改善が目的であり、多くのではあることが、クリニカルパスは療力がありまする。当院でもクリニカルパスと変がません。当院でもクリニカルパスとでよりません。当院でもクリニカルパスとままける。当院でもクリニカルパスとままける。当時できていない現状があります。

正しい知識をもとにクリニカルパスを 活用していく事ができるよう働き かけていこうと思います。

院外研修報告



「鹿児島ICTネットワーク学術講演会」に参加して

手術室主任 長倉周作

抗菌薬の不適切使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に問題になっていますが、日本では、厚生労働省が薬剤耐性対策に対する取り組みとして、「適切な薬剤」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」に使用することを徹底するために対策を推進しています。

例として一般的な風邪と言われる起炎は細菌ではなくウイルスによるものであり抗菌薬は効果がありません。 よって抗菌薬を投与しなくても回復していきます。今回の研修では、抗菌薬適正使用・薬剤耐性菌に対する予防 策など、多面的に多職種で取り組む必要性を学ぶ機会となりました。薬剤耐性に対しては、医師や薬剤師が中 心となって対策を講じていきますが、感染管理としても抗菌薬の適正使用に向けて、患者や家族、医療スタッフ に対し情報の提供や正しい理解に向けて取り組んでいきたいと思います。

「第58回 日本肺癌学会学術集会・ 世界肺癌学会」に参加して



外来主任 濵田幸蔵

日本、世界肺癌学会では、次世代シークエンス(治療の順番)として、遺伝子レベルの研究が盛んとなっている。当院も次世代シークエンスの探索研究に参加している。今回、学会に参加したことで、治療の動向を知りえたこと、当院が参加している臨床研究が、今後患者へ恩恵を受ける事を学べた。臨床のスタッフに伝える内容としては難しいが、自分たちができるGrade評価や患者のケアを通して、治療逸脱がないことが次世代シークエンスに大切なエビテンスをもたらす。有害事象の適正な評価、患者のセルフケアマネジメントが重要であるため、外来・病棟スタッフと協力して化学療法看護をしていきたい。

「第28回

ユマニチュード入門コース (を受講して

地域包括加病楝副師長 片平

11月11日・12日に開催されたユマニチュード研修入門コースに参加しました。

ユマニチュードはフランス語で「人間らしさ」を意味します。認知症の方たちに「見る」「話す」「触れる」「立つ」という人間の持つ特性に働きかけることで「自分が人間である」と思い出してもらい、ケアを通して絆が結ばれます。

研修では、ユマニチュードを実践している映像がたくさんあり、普段は興奮し話しをしないような患者が、アイコンタクトが取れた途端、ぱっと表情が明るくなり話しながら触れることで嫌がっていたケアに協力をしてくれるようになり魔法みたいだと思いました。でもこれは魔法ではなく技術なのです、日々のケアにユマニチュードを取り入れて、認知知症患者の笑顔が増えるように実践していきたいと感じました。

「ファーストレベル教育 認定管理者研修課程」に参加して

地域連携室副室長 瀬戸口

地域連携室へ移動となり、焦りや行き詰まりもある状態でファーストレベル研修は自分のこれのらの管理業務などについて示してくれるもうのでは、十イチンゲールの「看護覚校で必ず買うを理」について。(看護学校で必ず買うの活書?)自分がその場にいなくても、自分がいたを整えておくこととある。交代勤務、役割の交代の時に「知らないからできない」では、関わる人たちが不安になってしまう。そこが、管理の基本だと思った。

カンファレンスでは開催に関わる人件費を計算するとかなりの金額になる。目的と達成目標を共通で持ち、自分の役割が何かを理解して関わらないといけない。また、地域連携室の看護師の役割を明確にしていかなければいけない。

学んだ事を活かしながら、自分もスタッフも共に成長できるような関わりをして、患者さんが安心して自宅で過ごせるサポートができるようにしていきたい。

ミニナラティブ

4階西病棟 末吉

私は、現在の部署に配属され、9ヶ月がたちました。当院に入職するまでは老人保健施設で働いており、あまり人の生死に関わることがありませんでした。今回受け持った患者は、40歳代の女性で3人の子供がいる、くも膜下出血の方でした。私の中では、くも膜下出血を発症するとすぐに亡くなるというイメージでしたが、症状は軽く、無事自宅に退院されホッとしていました。しかし、その数日後、夜勤にくると、その患者の名前がカルテにありました。カルテ内には、再度脳出血を起こしている状態で呼吸器を装着していました。私はなんであんなに元気に退院していかれたのにと、信じたくない気持ちで病室にいくと、あのときに元気に退院された患者が呼吸器を装着されベットに横なになっており、家族が一生懸命声をかけていました。私は家族になんと声をかけてよいか分からず、その状態もみるのが辛くなり、ケアを終えると逃げるように病室を出ていってしまいました。

患者が亡くなったのは私の夜勤の時でした。泣きながら家族が患者に声をかけていましたが、私はなんと声をかけていいかわからず、ただ見守ることしかできませんでした。

今回初めて40歳代の若い患者の死を目の当たりにして、私が動揺してしまい家族への配慮が全くできていませんでした。

今回の経験で、看護師として人の死から目を背けるのではなく、家族が患者と最期の別れができるように環境を整えていくことが大切であるこということを強く感じました。

今後は、常に患者だけではなく家族の気持ちにも寄り添えるように行動していけるようしていきたい と思います。

マイブーム

手術室 堀田

私のマイブームは韓国アイドルのTWICEです。一昨年まで韓国アイドルの存在は知ってはいても、あまり興味はありませんでした。去年、友人と熊本に遊びに行く車内ではじめてTWICEの曲を聴いて、ドキドキしたのが始まりでした。TWICEは、韓国人5人、日本人3人、台湾人1人という9人の女の子による多国籍グループです。もともとはJYPという事務所に所属する練習生メンバー16人をオーディションにかけて最終まで残ったメンバーをTWICEとしてデビューさせる、という企画からはじまったものです。最終まで残ったのが今現在にTWICEとして呼ばれる9人のメンバーたちです。

本当にキャッチーなリズムと語感の選び方で、耳に残る楽曲が多いのも特徴です。昨年の2017年の流行ポーズになったTTポーズも彼女たちTWICEのダンスが起源です。

楽曲は韓国語のみではなく日本語バージョンも日本デビューを機に発売されていますのでぜひ聞いて みてください。いつか韓国に行ってみるのが最近の夢です。



2/13 看護研究発表会開催

皆様ぜひご参加ください

編集後記

新年を迎え、皆様はどのような目標を立てられたで しょうか?

今年の干支である戌年の特徴は、"勤勉で努力家" だそうです。

チャレンジ精神を持ち続け、目標達成に向けて、 新たな気持ちでトライしていきましょう。(久保)